

ソデイカ情報

沖縄県水産試験場

第1号 1995年8月

901-03 沖縄県糸満市西崎1-3-1

電話 098-994-3593・3597

ファクシミリ 098-995-2357

平成6年11月から平成7年6月に、糸満漁協に水揚げされた9,757のソデイカの外套長を測定した結果が図-1です。夏から秋にかけて急激に成長している様子がわかります。(8月は水試の調査。)

図-2は過去5年間に測定された平均外套長と、これから求められる成長曲線です。

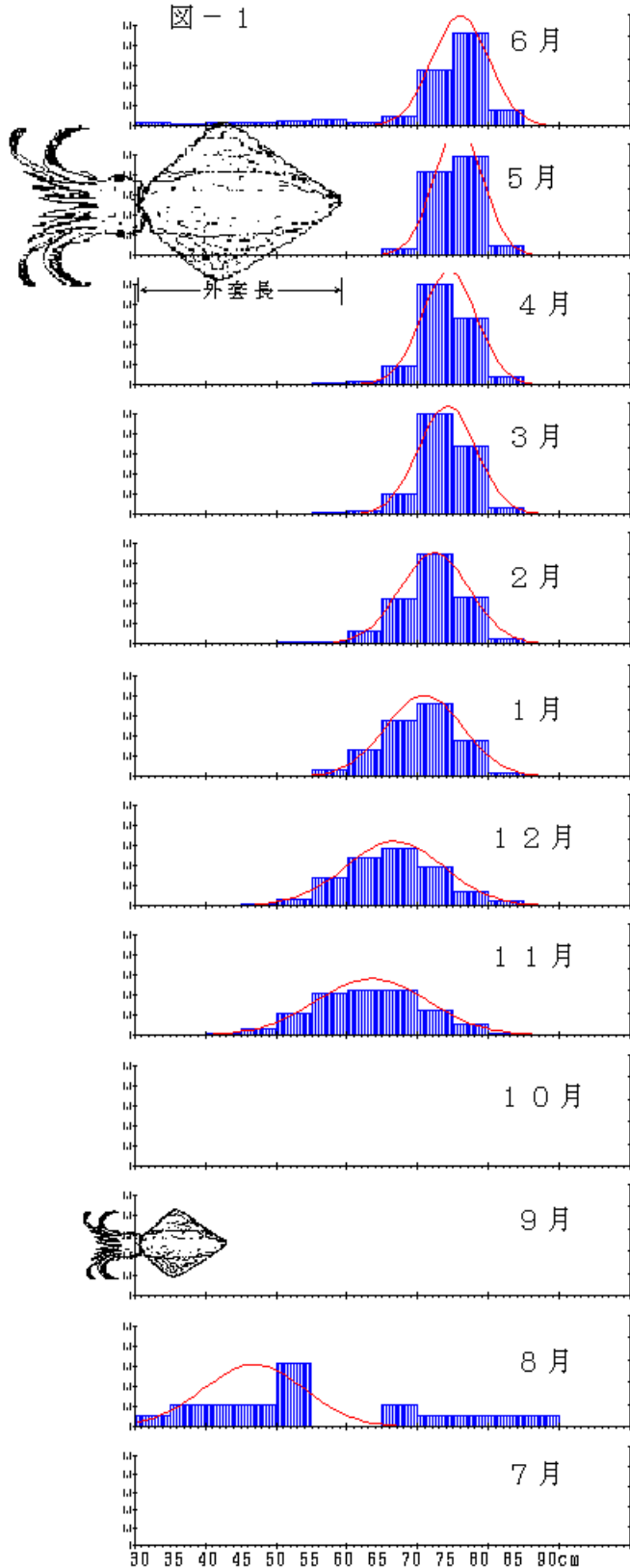
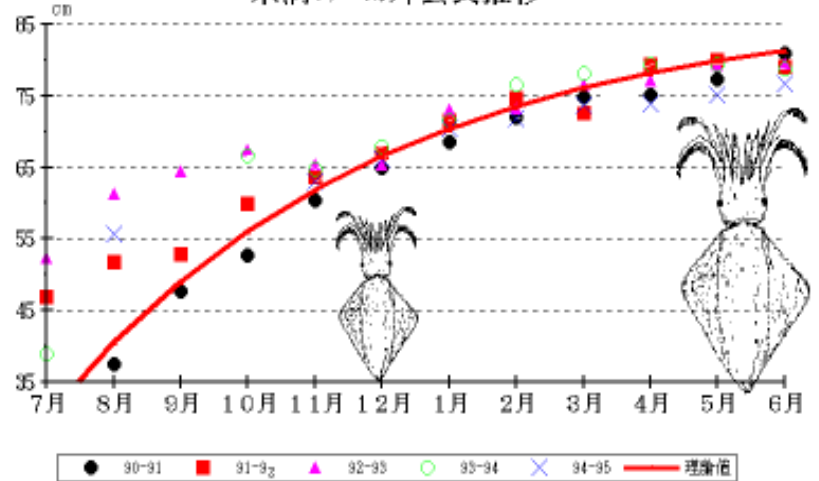


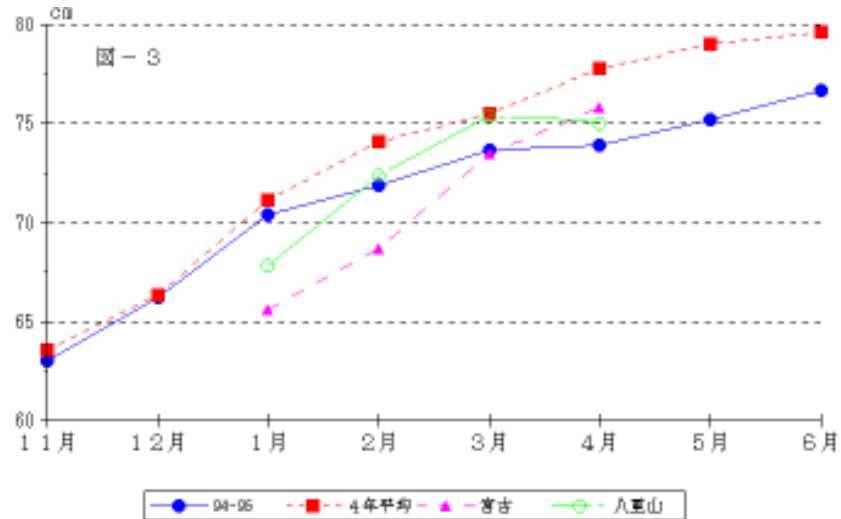
図-2

糸満ソデイカ外套長推移



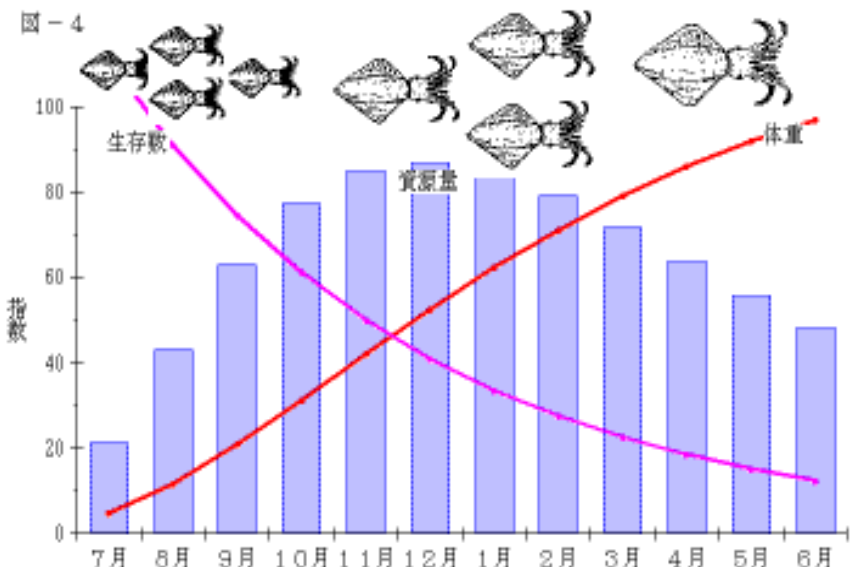
91年以降は、夏場に漁獲される小型なイカが市場に出されない傾向があるため、曲線よりも大きなものがみられます。

図-3は糸満の94-95年期と過去4年の平均値及び宮古、八重山で測定されたソデイカの外套長です。



糸満は、今期は1月までは過去4年の平均と同様の大きさでしたが、その後は小さめになっています。宮古・八重山は、糸満の過去4年の平均よりやや小型となっています。

図-4は、理論的な成長と生残率から、資源量がどう変化するかを示す1つの例です。



成長が速いので、夏場を禁漁にして我慢すれば、資源量が大きく育つことになります。7月 - 10月の禁漁の第1の目的は、このように小型のイカを漁獲しないで大きくなるまで育てることにあります。

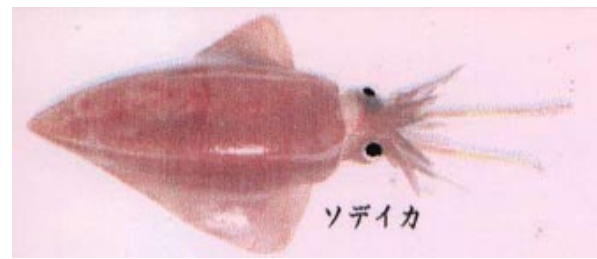


図 - 5 は、過去4期の全県の水揚げ量の推移です。今期は大きく水揚げが増加しています。特に前半の漁獲量が増えています。漁獲量の増加は、漁場の沖合化と延縄等漁獲努力量の増加によるものが大きいと思われます。

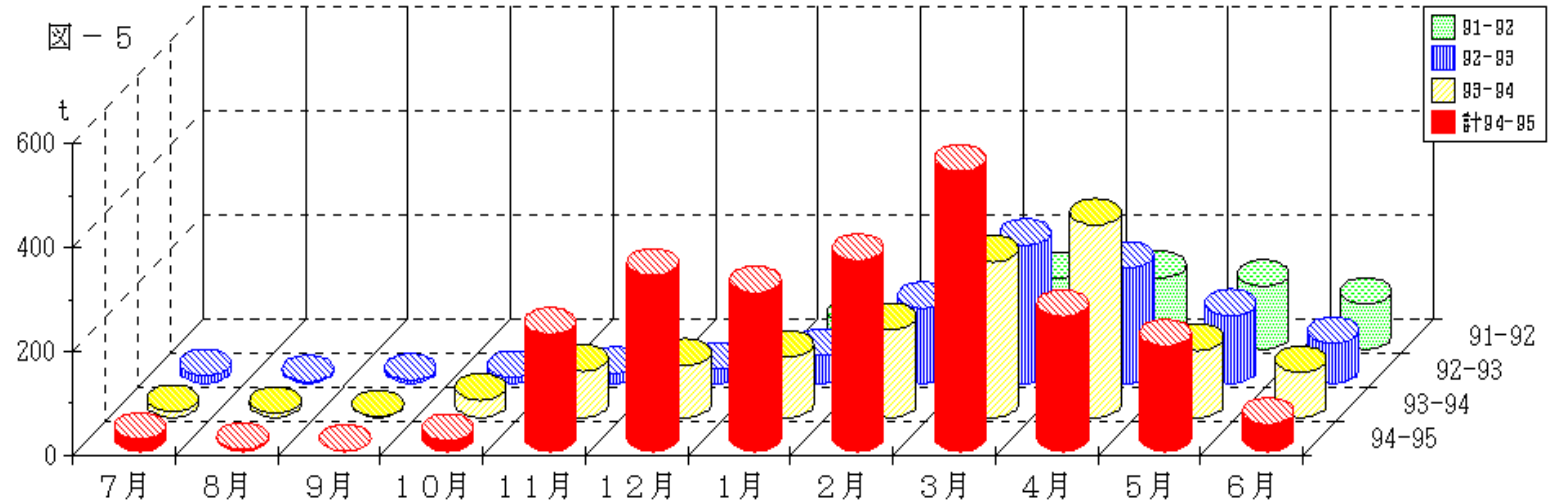


図 - 6 も過去4期の全県の水揚げの推移です。過去3年は、3月、4月に漁獲のピークがありましたが、今期はやや異なるパターンを示しました。旗流しに加えて、延縄の漁獲も含まれるため単純には比較できませんが、このグラフからいくつかのことが想像されます。1つは、過去3年はソデイカ漁船の増加にも関わらず、漁場の沖合化により資源が乱獲状態にならなかった可能性があること。次に、ソデイカが自然に死ぬ率は低いですが、産卵後急に高くなること。そして、小型のソデイカが釣られにくいことや小規模な回遊を行う可能性があることです。

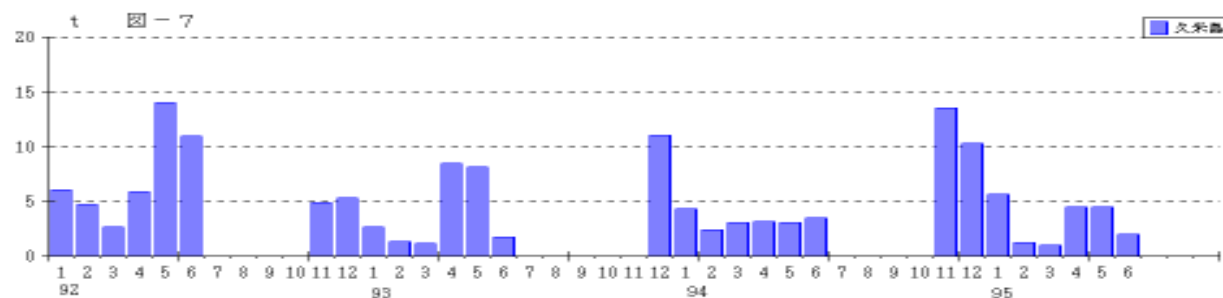
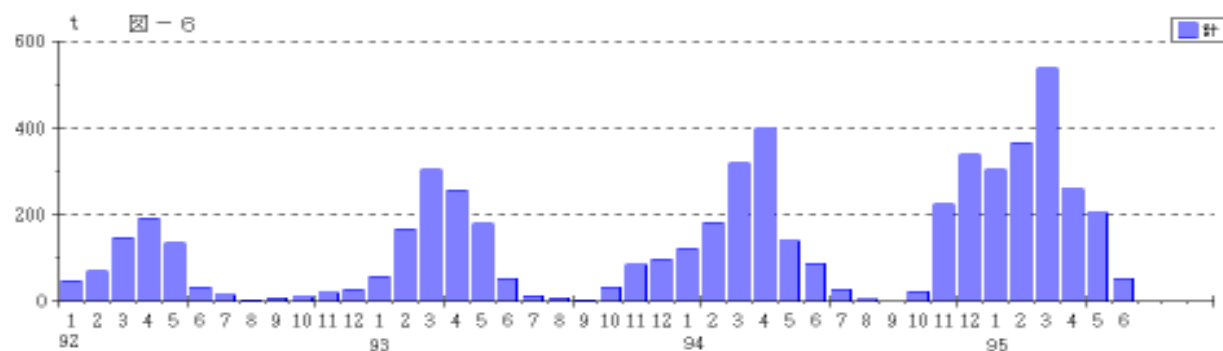


図 - 7 は久米島のものです。他の漁協は、ほぼ全県と同様の漁獲のパターンですが、沖縄で最初にソデイカ漁が開発された久米島だけは右下がりの傾向を示しており、資源を十分に利用している状況と思われます。今後、他の地区でも同じように右下がりになる可能性もあり資源の状況に注意が必要です。

今後も大切なソデイカ資源を守り、永続的に利用していくためには、資源の状態を調査する必要があります。このため、水産試験場及び漁政課が行う漁獲量、漁獲努力量（出漁日数、漁具数等）漁場の調査にご協力願います。また、海洋水産資源開発センターが実施中の標識放流調査にもご協力願います。